

やっぱり田川で暮らしたい。

新年明けましておめでとうございませう。皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃から市政の推進にご支援とご協力を賜り、衷心より厚くお礼を申し上げます。

昨年は未曾有のコロナ禍により、耐え忍ぶ一年となりました。未だ全国における感染拡大が続いておりますが、引き続き「新しい生活様式」の下で感染予防に努めていただきますようよろしくお願い致します。

また、世界的な混乱の中でも、東京オリンピック・パラリンピックの希望の灯は消えていません。8月に、ドイツとベラルーシの車いすフェンシング

チームが本市で事前キャンプを行えるよう「トレーラーハウス」の整備など、必要な準備を整えています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

さて、本市は、田川再生のための4本の柱「美しい街づくり」「新産業創出」「教育改革」「子育て支援」を軸に田川再生を推進しています。

また、再生の歩みをさらに進めるための新しい施策「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」「スマートウエルネスシティ」「共生社会の実現」「防災体制の強化」にも力を傾注。誰もが「やっぱり田川で暮らしたい」と思えるまちづくりを進め、移住定住の促進を図っています。

「美しい街づくり」では、丸山公園の整備、市道（桜町・新町線）の歩道整備などのまちづくりが進んでいます。また、刷新した田川伊田駅舎や駅前広場を拠点に、賑わいが生まれています。

「新産業の創出」では、パブリカを栽培する農業者の育成やジビエ商品の開発などが進んでいます。また、若者の「働きたい」に応えるため、テレワークセンターの設立やIT企業の誘致も実現しました。

「教育改革」では、陰山メソッドや小河式おがこうの導入、青山学院大学と連携した英語教育などで、児童生徒の学力が向上しています。また「田川スタイル」のICT教育推進の取り組みが「日本

ICT教育アワード」文部科学大臣賞を受賞し、全国から注目されています。現在、全児童生徒が1人1台のタブレット端末を使えるよう、環境整備を進めています。

「子育て支援」では、子育てクーポン券の配布や中学校給食の導入により、子育て世帯を支援。0歳～18歳の子どもと家族を切れ目なく支援する仕組みの整備に加え、保育料の完全無償化を実現。「子育てしやすいまち田川」を発信し、移住・定住の促進を図っています。

「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」では、まちの利便性を高めるために、商業施設や医療機関など、生活に必要な機能を集約し、公共交通網で居住地とのネットワークを繋ぐまちづくりに取り組んでいます。

「スマートウエルネスシティ」では、健康で幸せに暮らせる社会を目指し「健幸ポイント事業」を開始。参加者が着実に増えており、ウォーキングによる健康増進が図られています。

「共生社会の実現」では、東京パラリンピックに出場する海外チームの事前キャンプを契機に、ハード・ソフトのバリアフリー化を推進。障害の有無や国籍などに関わらず、誰もが社会参加できるまちづくりを進めています。

「防災体制の強化」では、災害対応ガイドブックを刷新し、全世帯への配布を実施。また、自主防災組織の活性化と人材育成のため「地域防災リーダー養成講座」を開始しました。

今後も、市民の皆様の生活が充実するよう鋭意努力し、田川の再生を目指してまいります。皆様の一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。本年が、皆様にとりまして幸多き飛躍の年となりますことを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

田川市長 二場 公人
ふたば きみと
令和三年元旦

